

「中国自動車産業、EV シフトが鮮明に！」

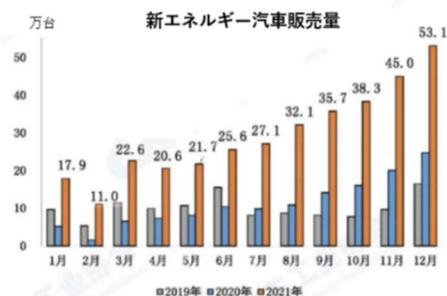
趙 万利

中国汽車工業協会(CAAM)によると、2021年の中国の自動車販売台数は、2,627万5,000台に達しました。そのような中、中国国産ブランド車の市場シェアは44%を超え、過去最高水準に近づいたと言われています。2021年の上位10社の自動車販売台数は、2,261万台で、全自動車販売台数の86.1%を占めています。昨年の国内自動車市場は、新型コロナウイルスの蔓延、半導体チップ不足、原材料価格の上昇等の影響を受けましたが、自動車市場全体は安定した増加傾向を示しました。中国汽車工業協会は、2022年の国産自動車の成長は続き、総販売台数は2,750万台に達し、5%程度増加するとの見通しを示しました。

＜新エネルギー車(NEV)市場の急成長＞

2021年、国内自動車市場では新エネルギー車市場は政策主導から市場主導に転換し、市場規模や製品開発が良好でした。中国の新エネルギー車とは、純電気自動車(BEV)、プラグインハイブリッド車(PHEV)、燃料電池自動車(FCV)が含まれ、販売台数の83%が純電気自動車、残りの17%がプラグインハイブリッド車で、燃料電池自動車はわずかです。新エネルギー車の販売台数は前年比2.6倍の352万台を突破、自動車販売台数全体(2,627万台)に占める割合は13.5%になりました。

中国汽車工業協会によると、大都市の消費者は新エネルギー車のニーズが高く、Connected(ネットワークへの接続)、Autonomous(自動運転)を合わせて「知能ネット自動車(智能網聯汽車)」と呼び、若い消費者の購買意欲を引きつけていると指摘しています。市場に基づくユーザーの選択は、消費者需要の変化を示しており、自動車市場をけん引し、自動車のEV化へのシフトを加速させています。



2021年の新エネルギー車メーカーをみると、BYD(比亞迪自動車)は年間販売台数が前年比221.3%増の58万4,020台で1位になり、国内自動車メーカーの中で唯一、新エネルギー車販売台数が50万台を突破しました。2位は上汽通用五菱自動車で、43万1,130台となり前年比177.3%増となりました。注目されているのは同社の「宏光ミニEV」です。販売台数は39万5,451台で、前年比250.7%と飛躍的に伸びています。販売価格が60万円ほどの安さで、性能

も満足できるとあって市場を驚かせています。2021年の販売ランキングの推移を見ると、宏光ミニEV販売ランキングは月を追うごとに順位を上げています。上海テスラは3位で、年間累計販売台数は32万743台で前年同期比133.3%増でした。



小型EV「宏光Mini EV」

一方、新興EVメーカーの、小鹏汽車、蔚来汽車、理想汽車がいずれも販売台数9万台を超えました。2021年の販売台数は、小鹏汽車が前年比275.2%増の9万8,155台、蔚来汽車が前年比109.1%増の9万1,429台、理想汽車が前年比177.4%増の9万491台です。これらの動向は、中国のEV産業が大きく成長する見込みがあることを示しています。

＜2021年の日系自動車メーカー販売状況＞

日系自動車メーカーは半導体チップ不足の影響を受け、販売額は1.8%減少しました。そのような中、日本のホンダの2021年の中国での年間販売台数は156万1,500台で、前年比4%減でした。また、東風日産は前年比6.4%減、年間販売台数は113万4,900台。トヨタだけが増加しており、年間販売台数が前年比8.2%増の194万台でした。

中国自動車市場で新エネルギー車市場が急激に成長する中、日系自動車ブランドの新エネルギー車市場でのシェアはまだ小さく、現在トヨタは中国で3つのEV車種を販売していますが、価格が高い、航続距離が短いなどの理由で、新エネルギー車市場への参入に苦慮しているようです。ただし、ホンダと日産はそれぞれ2022年には純電気自動車のSUVを発売し、新エネルギー車市場を切り開く準備を進めています。

中国の自動車市場が新エネルギー車へのシフトを加速する中、日本の自動車メーカーは市場変化に応じるために、新エネルギー車市場の開拓に力を入れることになるでしょう。

※画像出典：百度

※記事参照：sina.com.cn, 百度

- 2021年中国汽车销售排行：小鹏超越蔚来、理想
- 2021年度工业销量排名出炉 上汽居榜首
- 中国汽车工业协会：预计2022年我国汽车总销量同比增长5%左右